

第 72 回 国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 特賞

淑徳与野高校 1 年

中北 理智

課題①

今年は国連創設 80 周年。分断や対立が深まる中、国連が国際社会の利益に応えるために必要なことは何か。

副題

未来を選び取るための教育支援を

私は今年の春、フィリピンのセブ島に短期留学に行きました。皆さんはセブ島と聞いて何を思い浮かべますか。おそらく海がきれいなリゾート地だと思います。しかし、その裏で多数のゴミ山を抱えている実態があるのです。

フィリピンを訪れる前まで、私はゴミ山に住んでいる人たちは汚れた服を着て、空腹のまま、ばらばらに暮らしていると思っていました。

しかし、目にした現実、想像とまるで違う世界でした。ゴミ山に着いたら、日本のアニメである「ワンピース」の T シャツを着た男の子が、私の手を引いてくれました。その子に導かれるように家に入ると、おばあさんが出迎えてくれました。家にはベッドしかなく、寝るとき以外はご近所さんと話したり、ゴミを加工して売りに行ったりしているということでした。そこは 30 人ほどの集落で、Wi-Fi の貸し出しシステムやコンビニのようなお店もあり、助け合って暮らしています。ゴミ山に住んでいる人たちの中にもコミュニティがあることを知りました。

子どもたちは、ゴミの中からぬいぐるみと布を拾っていました。大人はそれを受け取り、ぬいぐるみを割いて綿を取り出し、布に入れて枕を作っていました。枕は売られ、その収入は都市部の平均的な仕事の 3 倍になる日もあるそうです。私が極度の貧困だと思い込んでいたゴミ山の暮らしには、一定の物質的豊かさがあることに戸惑いを感じました。

しかし、その豊かさには、脆弱性が潜んでいます。ゴミ山の子どもたちは、学校に通う代わりに、「仕事」としてゴミ探しをしています。実際、ユネスコの統計によれば、フィリピンの初等教育の修了率は約

91.9%で日本よりも明らかに低く、貧困地域ではさらに数値が低下します。

教育を受けずに成長すれば、職業の選択肢が限られ、将来も同じ場所で同じ生活を続けざるをえません。ゴミ山での暮らしは、他にも問題があります。過去、台風で家屋が流されたり、火災が起きたりして、人の命が奪われたこともありました。

フィリピン政府は、ゴミ山からの退去を推奨し、家屋や安定した職業を提供する政策を進めてきました。しかし、ゴミ山で生活している人たちは、それに応じません。理由は簡単で、今の生活の方が当面の収入が高いからです。私は、今の暮らしに満足して生きることと、将来の道を自分で選べる可能性を持つことは違うと思いました。

将来の選択肢を広げるためには、教育が不可欠です。教育の普及には、国際社会の継続的な協力と責任ある関与が有効であり、国連の役割が重要です。

今日、国連はウクライナ戦争などの影響で十分に機能していないとも言われています。しかし、私は世界の規範や秩序が揺らいている今こそ、国連の価値が一層増しているのではないかと考えます。国連憲章には、人権及び基本的自由の尊重を促進することが国連の目的であるという一節があります。これは教育を受ける権利や、未来の選択肢を広げる権利とも深く関係しています。国連がこうした役割を果たさなければ、教育を受けることができずに貧困に陥り、紛争が起き、分断や対立が深まるという「負の連鎖」が続きます。今こそ国連は原点に立ち返り、そのための国際協力を強化していく必要があります。

私たち一人一人も、このような問題と無関係ではありません。例えば、ゴミ山に積まれている廃棄物には先進国から輸入されたものが多く含まれています。私たちの豊かな消費が、知らぬ間に遠くの国の暮らしと繋がっているのです。こうした現実を目をそらし、無関心でいることもできます。でも、私は学び、行動し、声を上げたい。ゴミ山で出会った子供たちが、教育を通じて自分の未来を選び取るようになってほしい。そして、それはともに地球で生きる私たち全員で築くべき未来なのです。